介護講談で笑って

田辺鶴瑛さんの体験 映画に

認知症の義父と6年「『いい加減』が大事」

認知症の義父を6年にわたり介護した経験を、オリジナルの講談にしている田辺鶴瑛（かくえい）さん(60)の高座姿を収録した映画が完成した。当初は戸惑いながらも、後に介護の楽しさや義父への愛情を見いだしていくさまを収録。認知症の人の介護には「いい加減」が大事という田辺さん流の秘訣（ひけつ）が伝わってくる。

映画「田辺鶴瑛の『介護講談』」の一場面＝熊猫堂提供

「どこへわしを連れて行くんじゃ？」

「あの世、行くかい」

認知症で寝たきりだった義父土晋（つちすすむ）さん（享年91）の介護で繰り広げられるやりとりを、高座にのぼった田辺さんがユーモアたっぷりに語ると、客から笑いが起きるシーンが映し出される。

田辺さんは10代で母、30代前半で義母の介護を経験。その後、講談教室の記事に興味を持ち、33歳で講談の道に。介護の話を講談にして欲しいと依頼を受け、各地で披露するようになった。

2006年1月に晋さんを引き取り、自宅介護が始まる。元々関係が良くなかった上に、昼夜を問わず「ばかやろう」、「かゆい、かいてくれ」と怒鳴る晋さんに家族は疲弊していく。

だが、看護師の友人の助言などから「自分の人生を大切にしながら、ついでに介護をするくらい」に気持ちを切り替えていく。笑顔が増え、晋さんとの距離も縮まっていき、「おまえは天使だよ」と声をかけられるように。このエピソードも「天使と言われてごらんなさい。じいさんだけが天使と言う」と、講談に盛り込んだ。

映画には、こうした介護講談のシーンや、映画後半では実際の介護時の様子も収録している。

「じいさんは講談のネタにもなるし、いつしか可愛くなって大好きになった」。11年12月、晋さんは家族にみとられ、この世を去った。

田辺さんは、まだ介護経験がない人にも映画を見てもらいたいという。「『介護なんて知りたくない、見たくない』と思っている人ほど、実際に始まると暗くなる。笑いながら、介護を疑似体験して欲しい」。

「田辺鶴瑛の『介護講談』」（荻久保則男監督）をDVDに収録し、自主上映会用に有料で貸し出している。上映会情報も含め詳細は映画のホームページ（http://kaigo-kodan-movie.net/）。電話での問い合わせは熊猫堂（03・5738・7835）まで。

（及川綾子）